

寝屋川市地域福祉計画の見直しに向けた アンケート調査結果（概要）

I 調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、第四次寝屋川市地域福祉計画の策定にあたり、基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

（２）調査対象

市民調査：寝屋川市在住の 18 歳以上の市民

団体調査：寝屋川市内で地域福祉に関わる活動や事業を行っている団体

（３）調査期間

令和元年 10 月 11 日から令和元年 11 月 29 日まで

（４）調査方法

郵送による配布・回収

（５）回収状況

	有効配布数	有効回収数	有効回収率
市民	2,996 通	1,429 通	47.7%
団体	597 通	328 通	54.9%

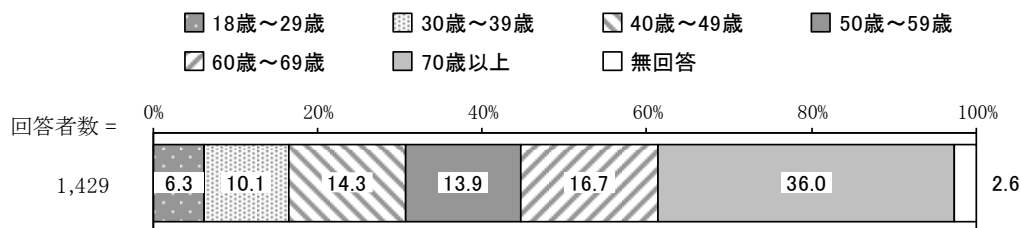
Ⅱ 調査結果

(1) 市民調査

問 あなたの年齢、性別をお答えください。

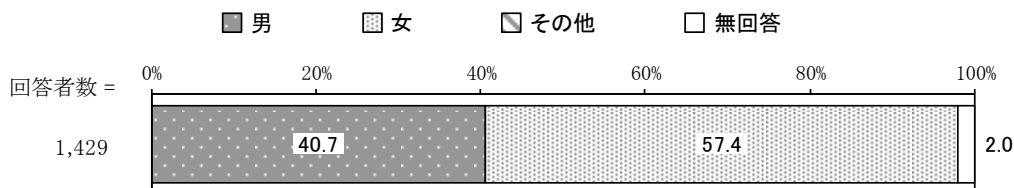
①年齢

「70歳以上」の割合が36.0%と最も高く、次いで「60歳～69歳」の割合が16.7%、「40歳～49歳」の割合が14.3%となっています。



②性別

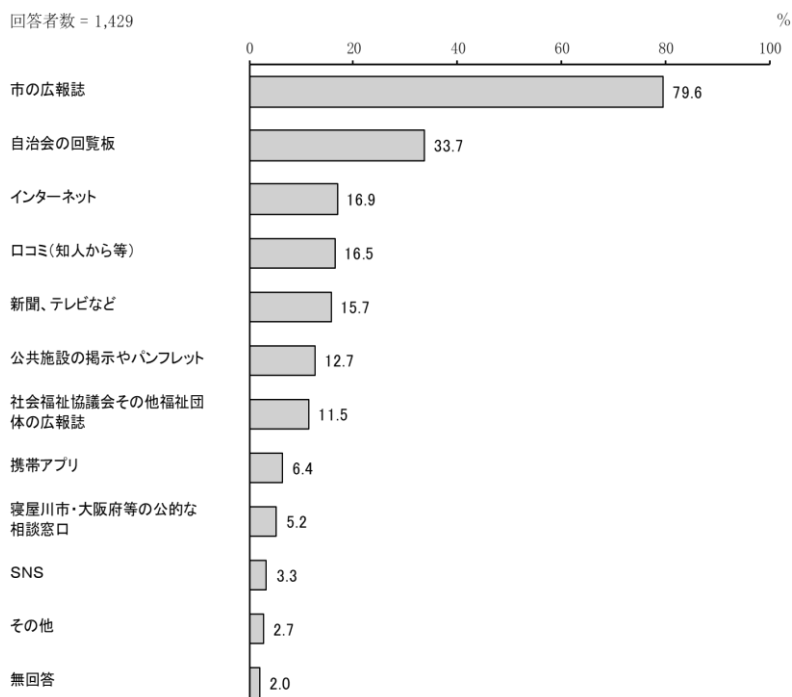
「男」の割合が40.7%、「女」の割合が57.4%となっています。



問 あなたが市の福祉に関する情報を得る手段はどれですか。(〇はいくつでも可)

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「社会福祉協議会その他福祉団体の広報誌」「自治会の回覧板」「新聞、テレビなど」の割合が、年齢が低くなるにつれ「インターネット」の割合が高くなる傾向がみられます。

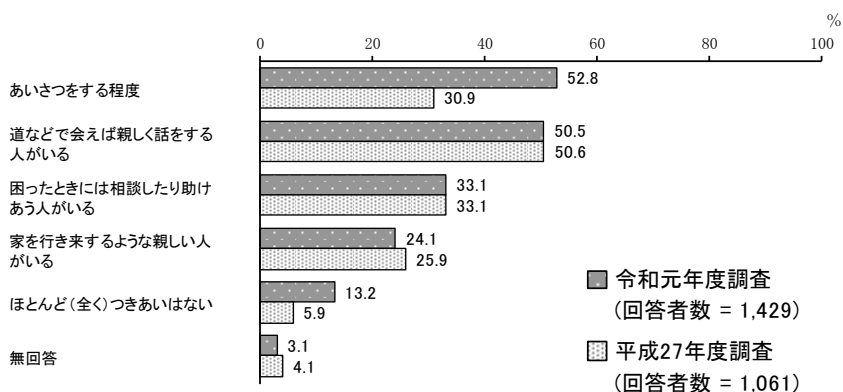
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「社会福祉協議会その他福祉団体の広報誌」「自治会の回覧板」「新聞、テレビなど」の割合が、年齢が低くなるにつれ「インターネット」の割合が高くなる傾向がみられます。



問 あなたや同居の御家族は、近所の人とどの程度の交流がありますか。
(○はいくつでも可)

回答者自身

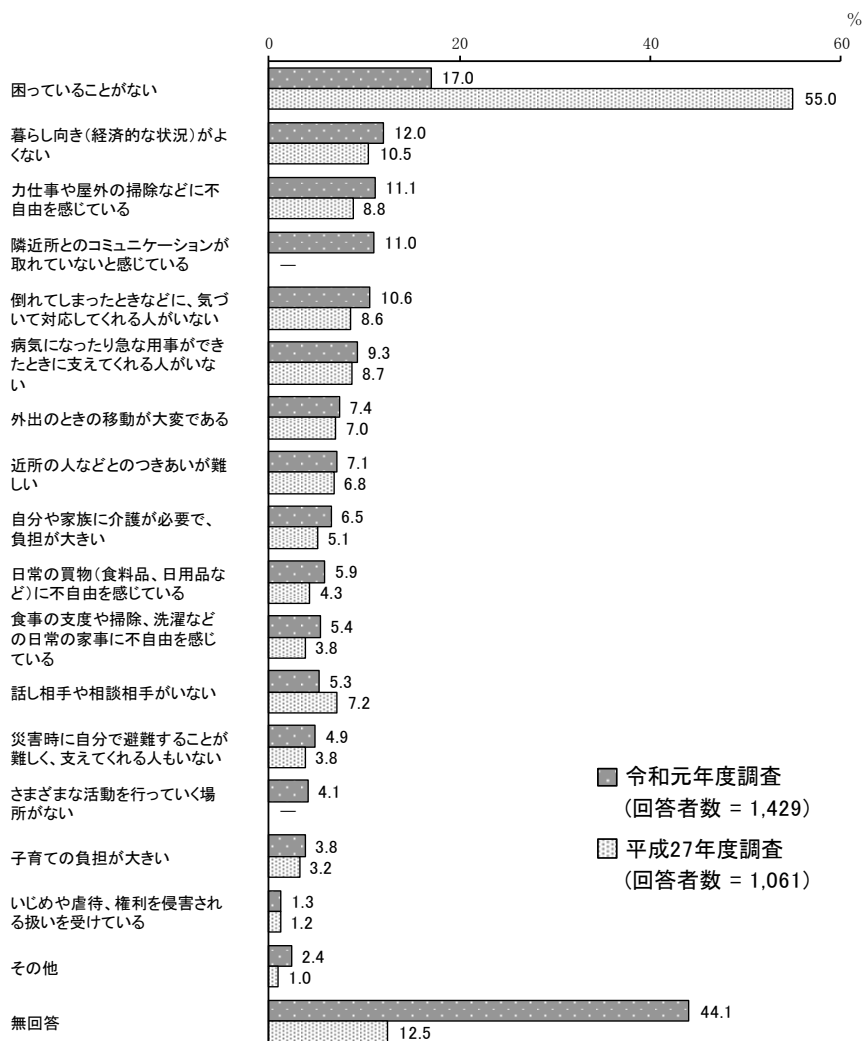
平成 27 年度と比較すると、「あいさつをする程度」「ほとんど(全く)つきあいはない」の割合が増加しています。



問 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。また、だれかに助けてほしいと思うような特に困っていることがありますか。(○はいくつでも可)

①困っていること

平成 27 年度と比較すると、「困っていることがない」の割合が減少しています。



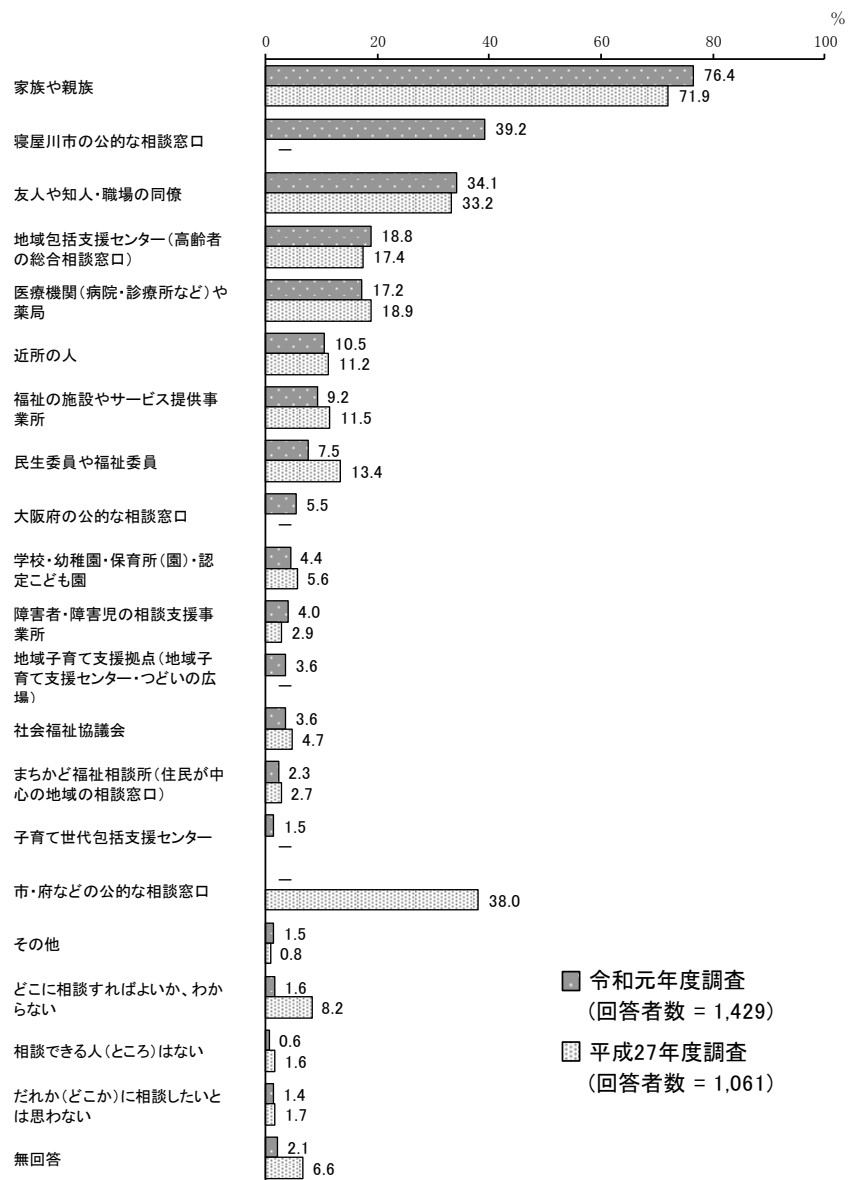
②特に困っていること

「暮らし向き（経済的な状況）がよくない」の割合が3.1%と最も高くなっています。



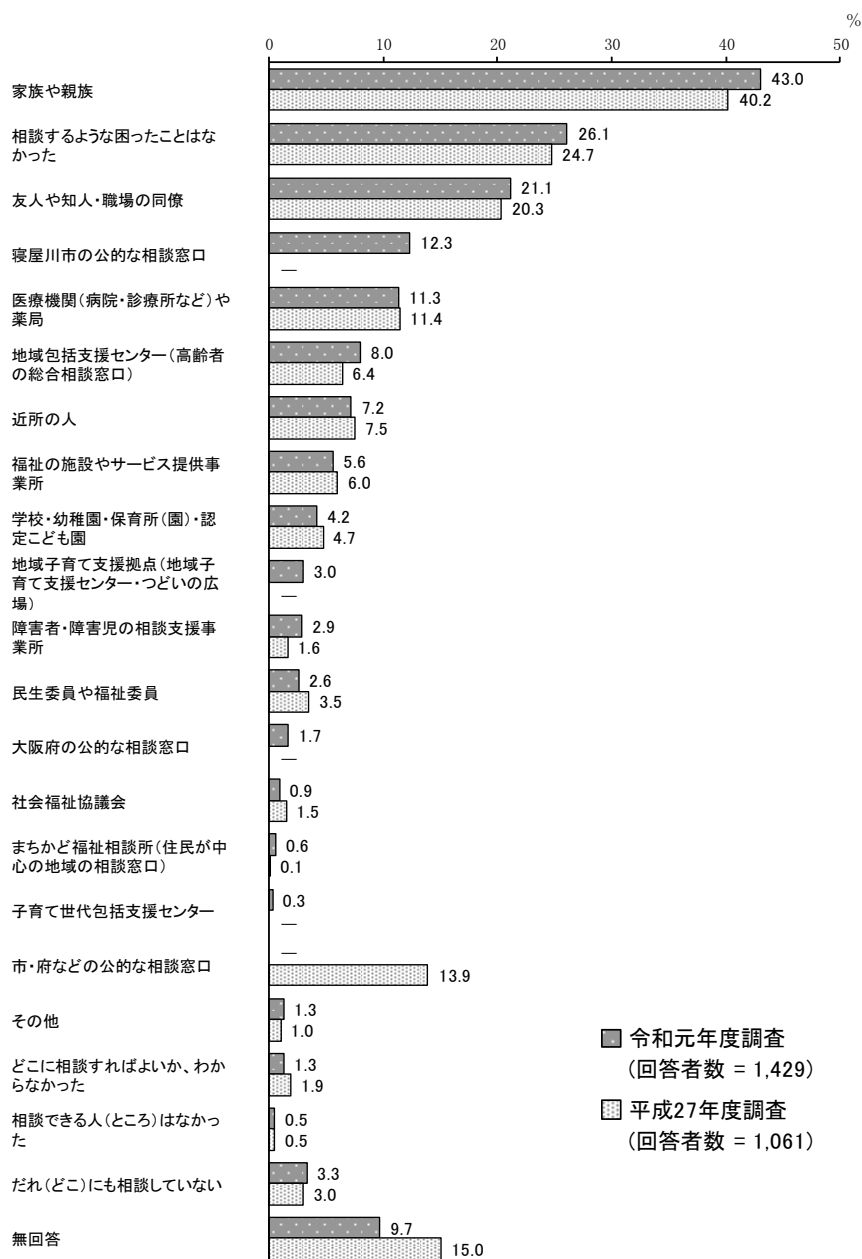
問 あなたは福祉、介護、子育てなどに関して困ったときに、だれ（どこ）に相談しようと思いますか。（〇はいくつでも可）

平成 27 年度と比較すると、「民生委員や福祉委員」「どこに相談すればよいか、わからない」の割合が減少しています。



問 これまでに福祉、介護、子育てなどで困ったときに、あなたが実際に相談したこと
がある人（ところ）がありますか。（○はいくつでも可）

平成 27 年度と比較すると、
大きな変化はみられません。



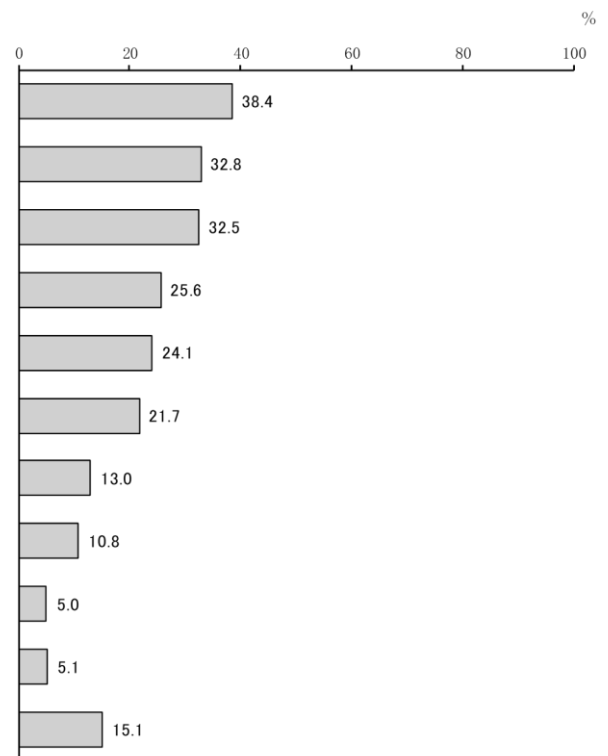
問 あなたは、身近な地域における住民同士の助け合い、支え合いを推進していくためには、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇はいくつでも可）

年齢別でみると、他に比べ、18歳～29歳、30歳～39歳で「地域での活動拠点や交流の場の整備」の割合が高くなっています。

また、18歳～29歳で「地域での防災活動の推進」の割合が高くなっています。

回答者数 = 1,429

地域での活動拠点や交流の場の整備
住民同士の助け合い・支え合い活動の調整を行う人材の育成
住民同士の助け合い・支え合い活動の場の整備
地域における相談支援体制の充実
地域の助け合い活動の意義と重要性のPR
地域での防災活動の推進
ボランティア団体やNPO等への支援
生活困窮世帯の支援
成年後見制度等の権利擁護の推進
その他
無回答



問 あなたは、福祉に関する次のような活動に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。（〇はいくつでも可）

すべての福祉活動において「参加したいとは思わない」の割合が高くなっています。次いで「今後、参加者として参加してみたい」の割合が高くなっています。

単位：％

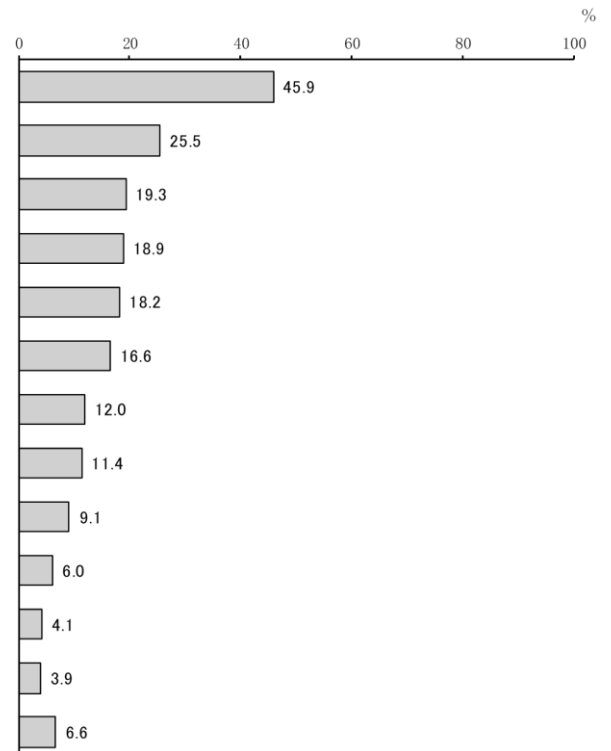
区分	回答者数（件）	1 運営スタッフとして 参加している	2 参加者として参加し ている	3 今後、運営スタッフと して参加してみたい	4 今後、参加者として参 加してみたい	5 参加したいとは思わ ない	無回答
①自治会、地域協働協議会、校区福祉委員会（サロン）などの身近な地域での福祉活動	1,429	3.6	5.7	2.1	16.6	41.8	31.4
②ボランティア、NPOなどの団体での福祉活動	1,429	2.2	2.0	2.4	14.8	43.8	35.4
③同じ福祉ニーズや課題をもつ人どうしの当事者活動	1,429	0.7	1.3	1.5	15.2	40.7	41.1
④その他	1,429	0.3	0.3	0.1	1.1	10.6	87.6
⑤特になし	1,429	1.0	0.5	0.4	2.3	17.1	79.8

問 現在、福祉に関する活動に参加していない、または、参加しない理由は何ですか。
(○はいくつでも可)

年齢別でみると、他に比べ、30歳～39歳、40歳～49歳で「仕事のため時間がとれない」「家事や育児が忙しく時間がとれない」の割合が高くなっています。また、18歳～29歳で「趣味や余暇の時間がなくなる」「興味をもてる活動がない」「きっかけがない」の割合が、70歳以上で「健康や体力に自信がない」の割合が高くなっています。

回答者数 = 1,042

仕事のため時間がとれない
健康や体力に自信がない
人間関係などがわずらわしい
きっかけがない
どのような活動があるかわからない
家事や育児が忙しく時間がとれない
趣味や余暇の時間がなくなる
一緒に参加する仲間がいない
興味をもてる活動がない
介護等により時間がとれない
その他
特に理由はない
無回答



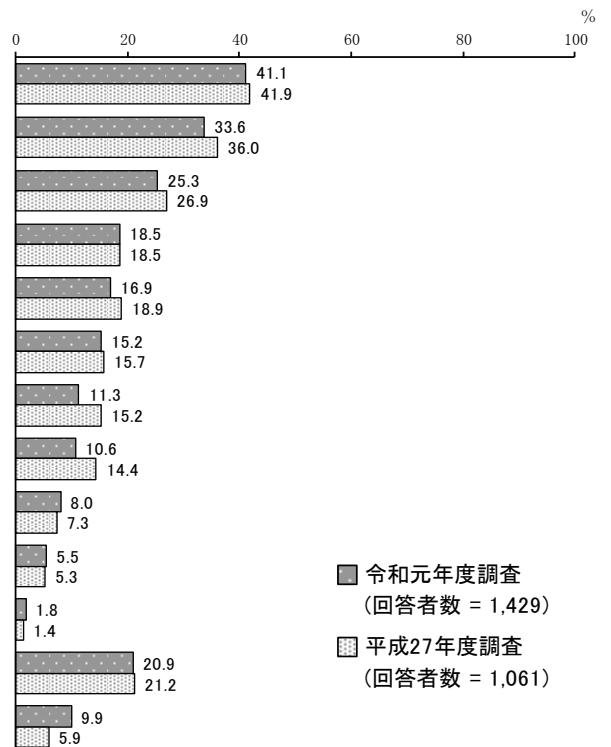
問 市民が福祉に関する活動にもっと参加するには、どのような取組が“特に効果的”だと思いますか。(○はいくつでも可)

平成 27 年度と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「一定の報酬が得られる活動を増やす」の割合が高くなる傾向がみられます。

また、60歳～69歳で「多様な活動の情報を提供する」「活動について気軽に相談できる窓口を増やす」の割合が、50歳～59歳、70歳以上で「特になし、または、わからない」の割合が高くなっています。

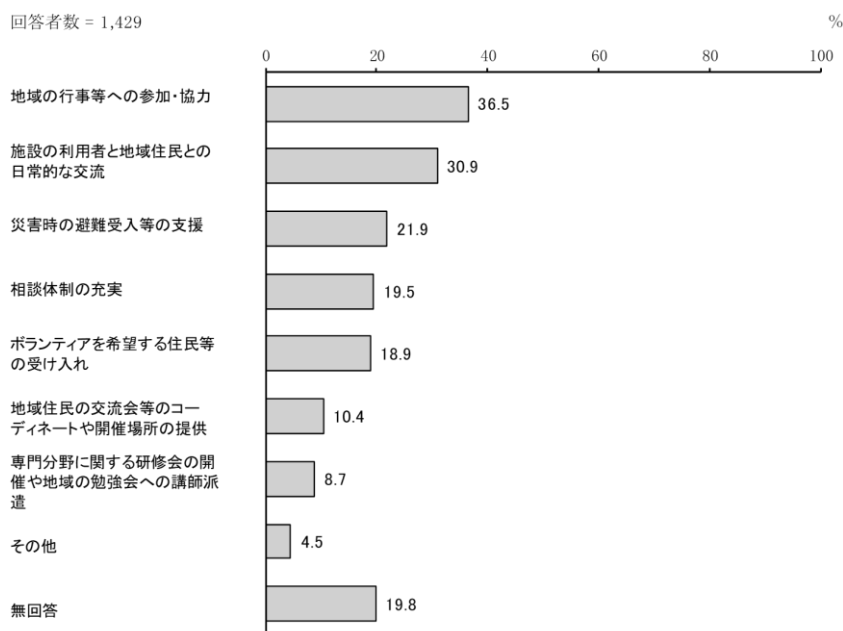
気軽に参加できる活動を増やす
多様な活動の情報を提供する
活動について気軽に相談できる窓口を増やす
参加を呼びかける取組を充実する
一定の報酬が得られる活動を増やす
知識や技術を身につける研修を増やす
一緒に活動する仲間やグループをつくる
活動拠点の確保や資金の援助を充実する
活動の立ち上げへの支援を充実する
活動のリーダーを増やす
その他
特になし、または、わからない
無回答



問 あなたは、地域にある社会福祉施設（老人福祉施設、保育所等）は地域とどのような関係にあればいいと思いますか。（〇はいくつでも可）

小学校区別でみると、堀溝小校区で「地域の行事等への参加・協力」「専門分野に関する研修会の開催や地域の勉強会への講師派遣」の割合が高くなっています。また、梅が丘小校区、桜小校区、堀溝小校区で「施設の利用者と地域住民との日常的な交流」の割合が高くなっています。

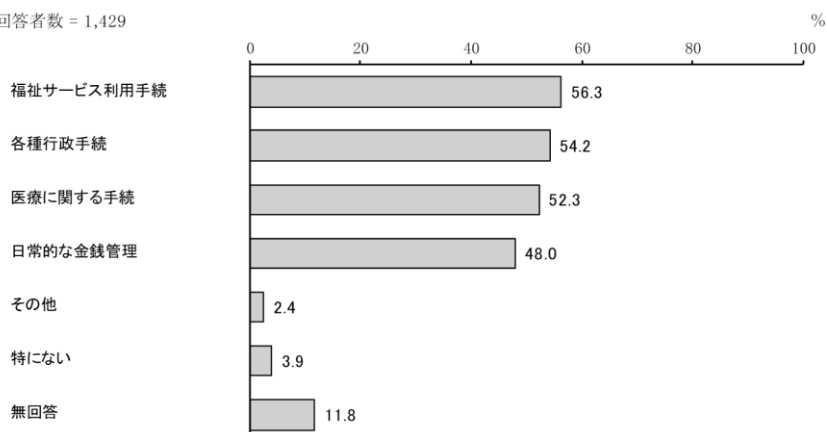
回答者数 = 1,429



問 高齢者や障害のある人にとって、日常生活の中で将来的に不安を感じると思われるものはどのようなことですか。（〇はいくつでも可）

介護が必要な家族の有無別でみると、介護が必要な高齢者がいる人、障害のある人や障害のある子どもがいる人で「各種行政手続」「福祉サービス利用手続」の割合が高くなっています。

回答者数 = 1,429

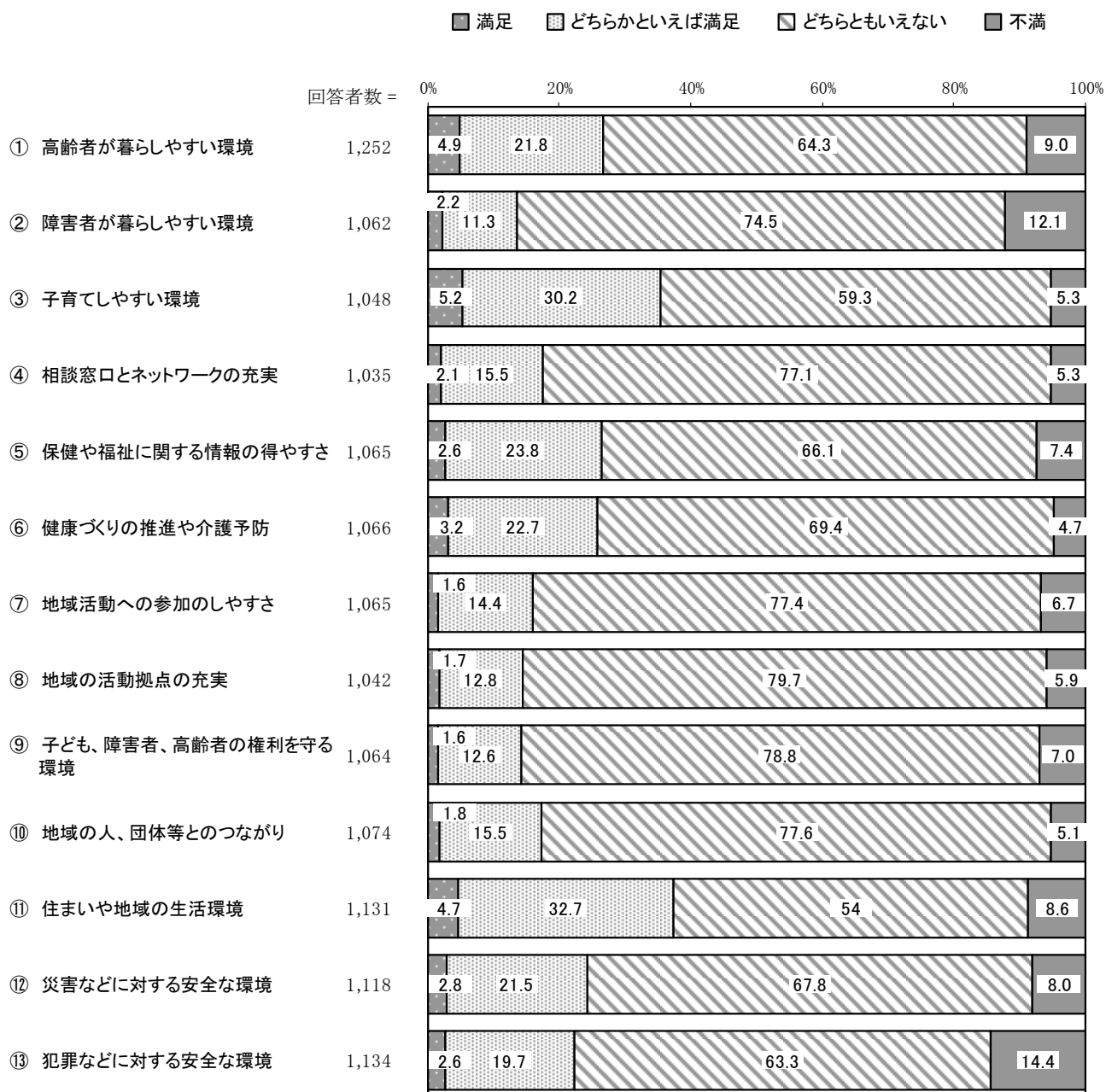


問 現在お住いの地域での暮らしに関する環境についてどのように感じていますか。「現在の状況」と「以前（概ね5年前）と比べた状況」についてそれぞれお答えください。（〇は1つ）

<現在の状況>

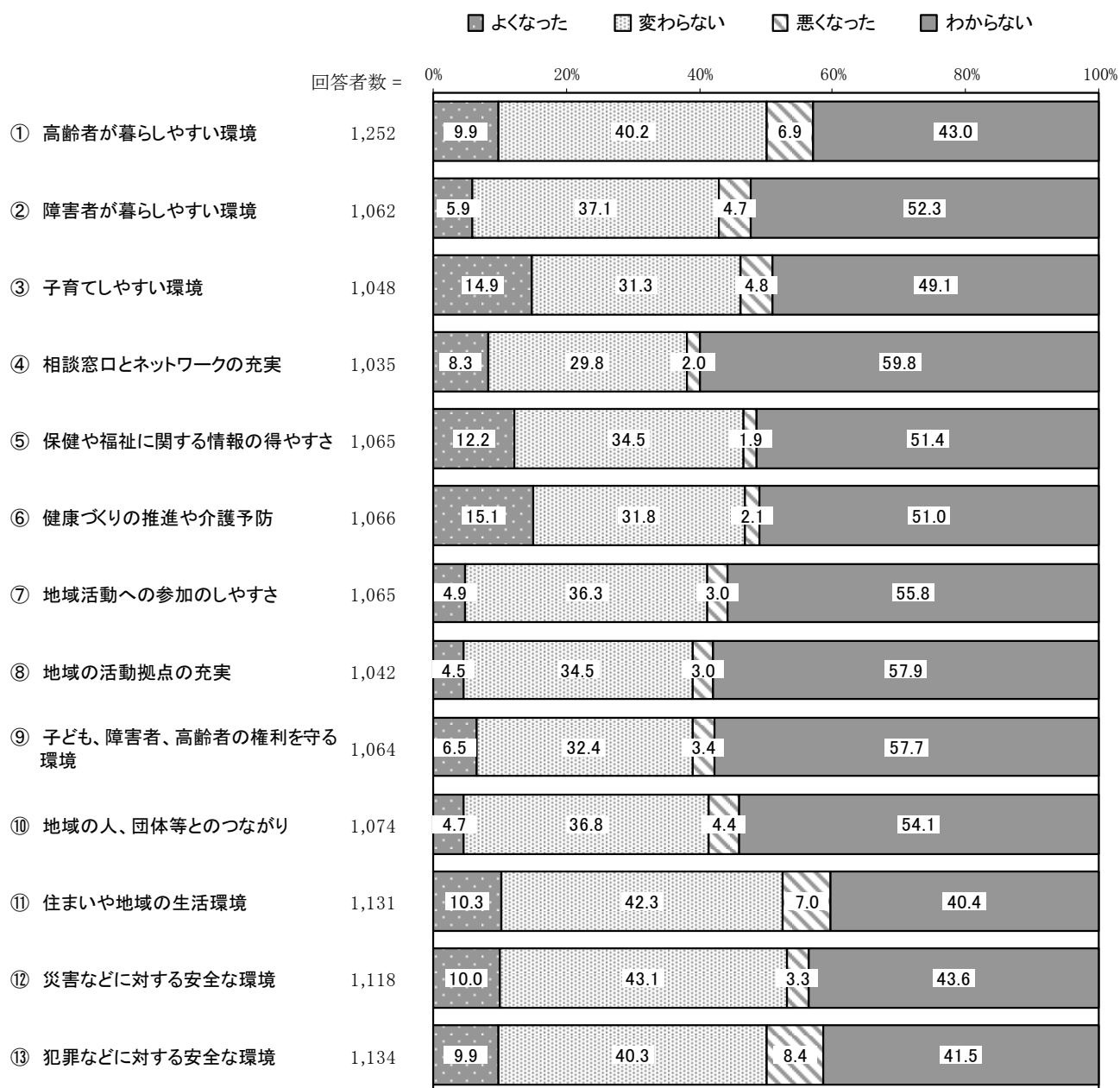
『③ 子育てしやすい環境』『⑪ 住まいや地域の生活環境』で「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた“満足”の割合が高くなっています。

『高齢者が暮らしやすい環境』『子育てしやすい環境』『住まいや地域の生活環境』で「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた“満足”の割合が高い（2割強）。



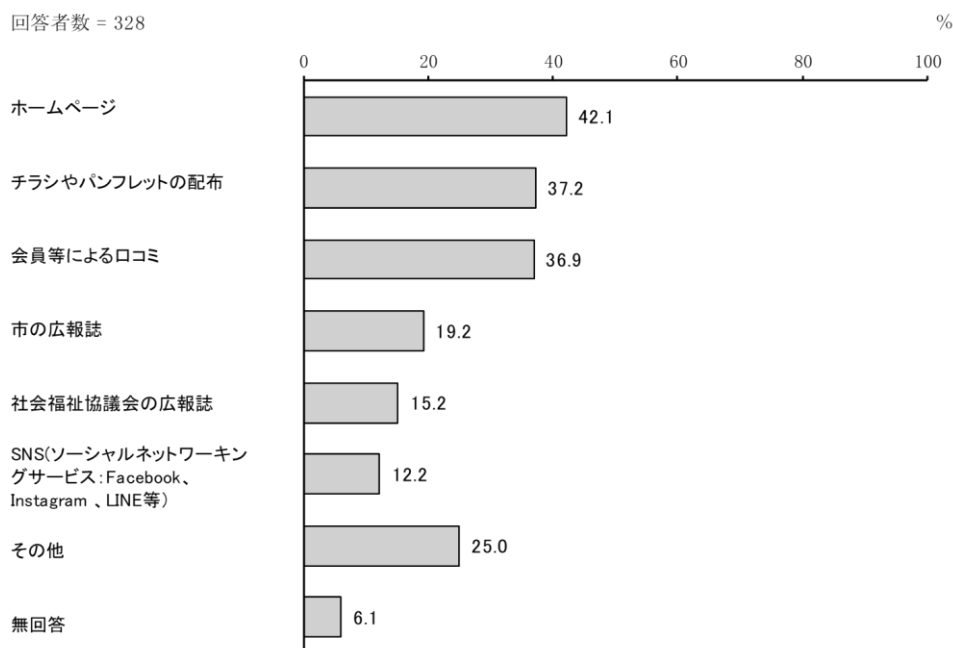
<以前と比べた状況>

『③ 子育てしやすい環境』『⑥ 健康づくりの推進や介護予防』で「よくなった」の割合が高くなっています。また、『⑪ 住まいや地域の生活環境』『⑫ 災害などに対する安全な環境』で「変わらない」の割合が高くなっています。

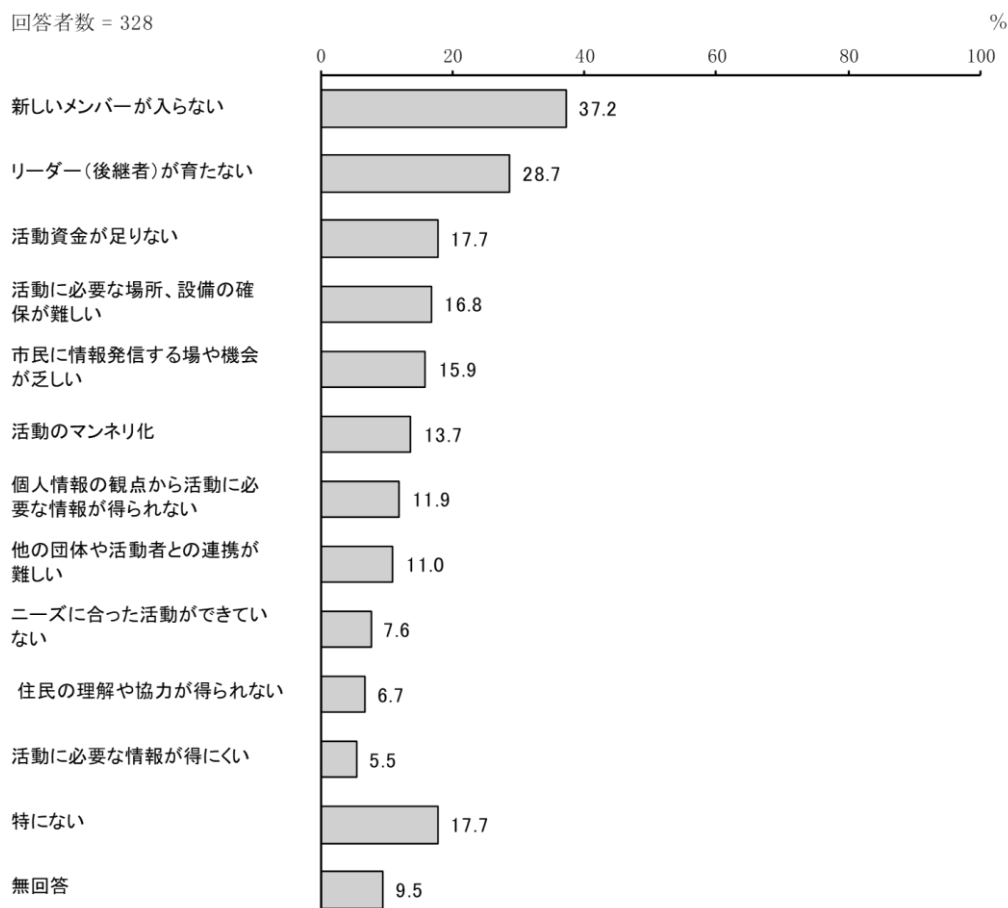


(2) 団体調査

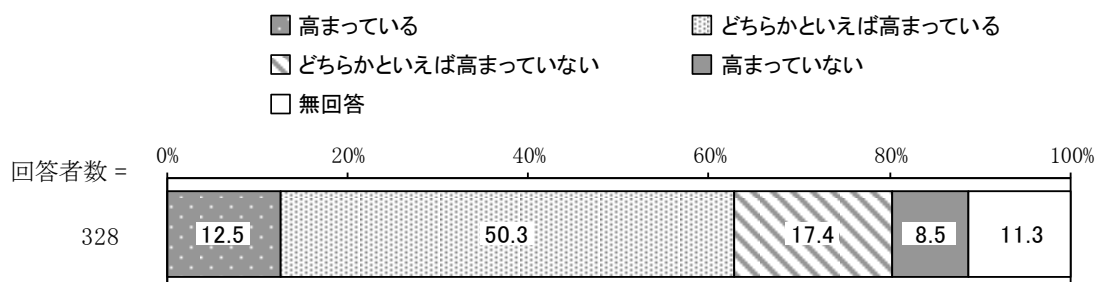
問 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。
(該当するものすべてに○)



問 貴団体が活動を行う上で、困っていること・課題は何ですか。
(該当するものすべてに○)



問 活動されている中で、地域における地域福祉に対する意識は高まっていると感じますか。(〇は1つ)



問 活動されている中で、地域の方からどのような日常の困りごと、地域の問題などをお聞きしますか。

- ・ 認知症高齢者への介護や徘徊などへの対応ができない
- ・ 老老介護の問題、高齢化した障害者の子を高齢の親が介護している
- ・ とにかくあらゆること、ささいなことに対して苦情が多い
- ・ ゴミ出しのルールが守られていない、カラスなど動物による害
- ・ 隣人関係の希薄化、自治会の未加入等 など

Ⅲ アンケート調査結果から抽出した課題

- ・困ったときの相談相手は、「家族や親族」「友人や知人・職場の同僚」の割合が高くなっています。

また、高齢者や障害のある人が、日常生活の中で将来的に不安を感じられることとして、「福祉サービス利用手続」「各種行政手続」「医療に関する手続」「日常的な金銭管理」の割合が高くなっています。

今後、支援を必要とする人が、適切なサービスを選択・利用でき、適切な専門機関などの相談窓口につながりやすい仕組みづくりが重要となります。

- ・市民の福祉情報の入手手段として広報誌や自治会の回覧板、インターネットなど、様々な情報手段が活用されている中で、市民の安全・安心な暮らしを守るため、福祉サービスの情報発信や提供について、様々な媒体の活用により、情報入手の選択肢を増やしていくことが重要です。

- ・福祉に関する活動について、「参加したいとは思わない」の割合が高くなっており、その理由として「仕事のため時間がとれない」が多くなっています。

また、市民の福祉活動への参加を促すために効果的であると考えられる取組としては、「気軽に参加できる活動を増やす」「多様な活動の情報を提供する」の割合が高くなっています。地域福祉活動において、各団体等の継続的な活動がとても重要であり、市民が参加しやすい場の創出が求められます。

- ・身近な地域における住民同士の助け合い、支え合いを推進していくために、力を入れたらよいと思うことについて、「地域での活動拠点や交流の場の整備」、「住民同士の助け合い・支え合い活動の調整を行う人材の育成」「住民同士の助け合い・支え合い活動の場の整備」などの割合が高くなっています。

前項の参加意向と併せて、「地域のつながり」の向上に向けた検討が必要です。